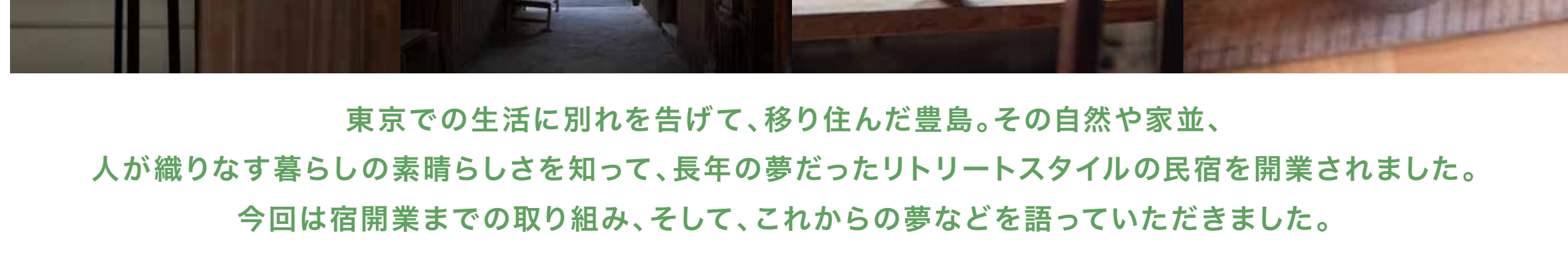


いい風が、自分の中を  
すうっと吹き抜けていく。  
そんな時間になりますように。

Interview  
いい風が吹く。

上野 華子さん



東京での生活に別れを告げて、移り住んだ豊島。その自然や家並、人が織りなす暮らしの素晴らしさを知って、長年の夢だったリトリートスタイルの民宿を開業されました。今回は開業までの取り組み、そして、これからの夢などを語っていただきました。

## 現在、農林漁家民宿をどのような形で営業されていますか？

私の農林漁家民宿は、住んでいる家の敷地内にある納屋を改装した宿です。営業申請をして許可が下りたのが2023年10月、お客さまをお迎えし始めたのは2024年3月です。納屋についても独立した建物で、ひと組のお客さまがゆったりとプライベートに過ごせる一棟貸しのスタイルになっています。2階に和室の7畳間があり、宿泊人数は最大3名ですが、大人3名では手狭かなと思いますので、大人2名、子ども1名くらいまでがちょうど良いです。お客さまにはご説明しています。宿泊料金は素泊まり1泊で大人1名8,500円、2名の宿泊では1人あたり7,500円です。小学生以下のお子さまは半額料金（旅行サイトでの予約は除く）となり、添い寝される小さなお子さまは無料にさせていただきます。

お食事については、お昼や夜のお食事を希望される方は島内のお食事処をご案内しています。宿の目の前には『鳥キッチン』というレストランがあります。夫が港の近くで『タカにやん食堂』という、瀬戸内で獲れたお魚と島の野菜を使った食堂をしていますので、ご希望のある方は車でお連れしています。宿にはキッチンもありますので自炊も可能です。

朝食のご希望があれば、共同調理という形の朝ごはんを1食700円で提供しています。メニューは和と洋があり、和は豊島で獲れたお米とお塩と海苔で作った『おにぎりセット』です。そこに自家製のぬか漬けと温かいお茶がつきます。シンプルですが、豊島ならではの滋味深いおいしさを感じていただけるかなと思っています。洋は『パンセット』で、ホームベーカリーで焼いた焼き立てのパンにバターと自家製ジャム、コーヒーや紅茶をおつけしています。でも海外からのお客さまの多くはおにぎりセットを選ばれますね。みなさんとても喜んでくださいます。せっかく豊島にいられていますので、お客さまのご希望をできるだけ叶えられるようきめ細かく対応したいと思っています。



母屋の“離れ”的な納屋。こじんまりとした空間ながら、居心地の良さが感じられる。



古いものの味わいを残しながら少しずつアップデート中。陶芸の工房は始動間近です。

## お宿のPRポイントをお教えてください

『豊島美術館』や『唐櫃の棚田』など、島の観光スポットへ徒歩で行ける立地も魅力ですが、いちばんは、豊島の美しい自然や家々の佇まい、それらが一体となって生み出しているこの空気感の中で寝泊まりしてもらえなことだと思っています。この島の自然と人がずっと培ってきた環境の中に身をひたすことで、いつもとは違う空間と時間を感じていただけたり。気持ちのいい風がすうっと吹き抜けていく時のように、シンプルな感覚の中にある喜びや確かさ、充足感のようなものをご自分の中に感じてもらえたらうれしいです。季節によって変わる雰囲気やよさがあることもとても魅力だと思います。



## なぜ農林漁家民宿をはじめようと思ったのでしょうか？

私は千葉県のパッドタウンで育ちました。いいところですが、私自身は子どもの頃から、自然が身近にある風景や、その土地の風習が残るような田舎の生活に魅力を感じていました。夏休みのたびに母の実家に帰省していましたが、そこで過ごす時間がとても好きで、今でも記憶に残っています。実家を出てからは東京で10年暮らしましたが、「ここは私が本当に住みたい場所ではないな。いつかどこか（もっと自然のあるところ）へ」という思いはずっとありました。そして娘が生まれる前に訪ねた豊島を気に入り、2019年に家族とともに豊島に移り住みました。友人たちからは「すごい決断をしたね」と驚かれましたけど、自分にとっては自然な流れでした。

それと、私は昔から「人が健康であるということ」に興味があってセラピーを学んだりしていたのですが、「いつかリトリートの宿をやりたい」という思いもだいぶ前から持っていました。リトリートとは『忙しく過ごす日常生活から一時的に離れ、心身をリフレッシュして自分と向き合う時間を過ごす旅のこと』で、この島はぴったりの環境だと感じました。

移住後は、子どもがまだ小さくて育児が生活の大半を占めていましたが、畑や田んぼをやってみたり、家に残されていた物品を少しずつ片づけたり、地域で茶屋をやったり、自分で一からワークショップを作って開いたり、その時々でやること、やりたいうのを楽しみながら全力でやっていました。その後、コロナ半年ほど、家族の生活にも変化が生まれたことをきっかけに宿を開業に着手しました。宿がオープンしたのは移住してから4年ほど経った頃でしたが、今思えばそこまで時間があつたからこそだと、すごく思います。まずは自分自身がこの島に身をひたす時間が必要だったんですね。



「シンプルなかんじの中にある喜びを、ご自分の中に感じてもらえたら」と上野さん。

## 開業するための経費について教えてください

開業資金が潤沢にあったわけでもなく、最初から完璧な設備を整えて開業しようとは思っていませんでしたので、今できる範囲内で準備をしていきました。納屋の1階の床を撤去して土間にしたり、2階の曇りガラスを透明なものに変えたり、火災報知器の設置をしたり。次に水道、ガス、電気等のインフラ工事ですね。それらにかかった費用のうち、75万円の2/3を補填してもらえる補助金を活用したりしました。

その後も、宿泊に必要な備品類を充実させたり、1階のキッチンにシンクを設置したり、工房にするスペースに光と風を取り入れるための窓をつけてもらったりと、累計すれば100万円以上はかかっています。ただ設備投資に関してはまだ途上だと思っていますので、今後も宿を運営しながら整備を続けて、より快適な空間を作っていきたいと考えています。

## 旅館業法等の開業手続きは、ご面倒ではなかったですか？

申請に関わる法令など、私は何も分からない状態でしたので、民宿開業の際に香川県農村整備課に相談しました。担当の方が一から細かく、最初から最後まで伴走してサポートしてくださったおかげで大きな苦労はなかったですね。教えていただいたことに従って順にタスクをクリアしていく、そんな感じで許可をいただくことができました。ご自分で民宿を開業された方から大変だったという話を聞いたことがありましたが、県の方に相談できて本当にありがたかったです。

## 農林漁家民宿を開業して良かったことは何ですか？

普通に暮らしては出会えない人たちと出会い、ひと時ではあっても時間と空間を共にする面白さを日々感じています。お客さまに喜んでもらえることはもちろんですが、その方の人柄や個性を感じて元気やあたたかい気持ちをもたらすことも多いです。それと、私自身がこの島に住み始めて間もない頃に得た“ある感覚”をお客さまと共有できることでしょうか。

その感覚とは、“余白がある感覚”です。東京は建物も密集していますし、歩いていても広告や看板が目に入り、お店にも膨大な品物であまりの違和感を感じて衝撃を覚えたんです。豊島は空と田畑と山と海の景観がほとんどで、空間にすくく抜け感があります。高い建物も密集した住宅地も広告や看板もありません。そこには視覚的な違いがまずありますが、それ以上に感じたのは体感的な違いです。都会は空気の中にもあらゆる情報がぎゅーぎゅーに詰まっている感じがしますが、この空気にそれが無い。だから深く呼吸ができる感じがする。

それに気づいた時は「なにこの感覚!スゴイ」って、ひとりでものすごく興奮しました(笑)。私にはすごく新鮮な感覚として感じられたんですね。それはやはり言葉だけでは伝わらない感覚なので、ここに泊ってもらうことで少しでもそれを味わってもらえることはすごく嬉しいです。

## 宿泊者とのエピソードで心に残ったことがあれば教えてください



海外のお客さまからいただいたメッセージに、たしかなものを感じました。

お客さまとのふれあいはどれも特別で印象に残ることも多いのですが、開業して間もない頃にいただいた言葉がいつも深く心に残っています。それは「あなたのお部屋の豊島での時間はとても静かで、リラックスしていて、まさに私が求めていたものでした。」という言葉です。

これまで自分が宿を作ってきたプロセスだったり、日々のサービスだったり、その一つずつが宿の作るためのベースに「さういふことをお渡したい」というものがあるんですね。それは言葉で伝えるのはむづかしい、感覚やフィーリングの部分だったりするのですが、それがちゃんと伝わった、受け取ってもらえたと思えた最初の体験でした。そのお客さまは海外の方でしたので、言葉で雄弁にやり取りするだけではなかった分、なおさらにはちゃんと伝わると感銘を受けたのだと思います。

## 農林漁家民宿の魅力は何ですか？

豊島の自然や素材などが、身近にあるものを活かしたサービスを提供しているから。たとえば、私は豊島に移り住んでから、畑や田んぼをやったり、お味噌を作ったり、島の果物でジャムを煮たり、冬にももらった大根で干し大根を作ったり、眺めのよいお気に入りの場所を見つけてそこでお茶を淹れて飲んだり、野草や葉っぱを摘んで季節ごとの野草茶を作ったり、きれいな実や花を入れた蠟燭を作ってみたりと、豊島だからできる色々な体験や遊びをたくさんしてきました。それらはどれも私にとって新鮮で心動かされるものでしたので、ここに訪れた方も共有できたらいいなと思っています。

農林漁家民宿は、その土地の風土や特性に、宿を運営する人の個性が組み合わさっているところが最大の魅力だと思います。また、お客さまとの垣根が低いので、形式ばらずに親しみのあるコミュニケーションができることも好きですね。『宿』に泊まっていたらというよりも、『豊島で暮らしている私の家』の延長にお客さまをお招きする、そんな感覚があります。こちらの懐にすこし入っていただくというのでしょうか。

ですから、たとえ一泊という短い時間であっても、“心の琴線にふれるような特別な瞬間”が、農林漁家民宿にはあると思います。

## 農林漁家民宿の今後の目標を教えてください

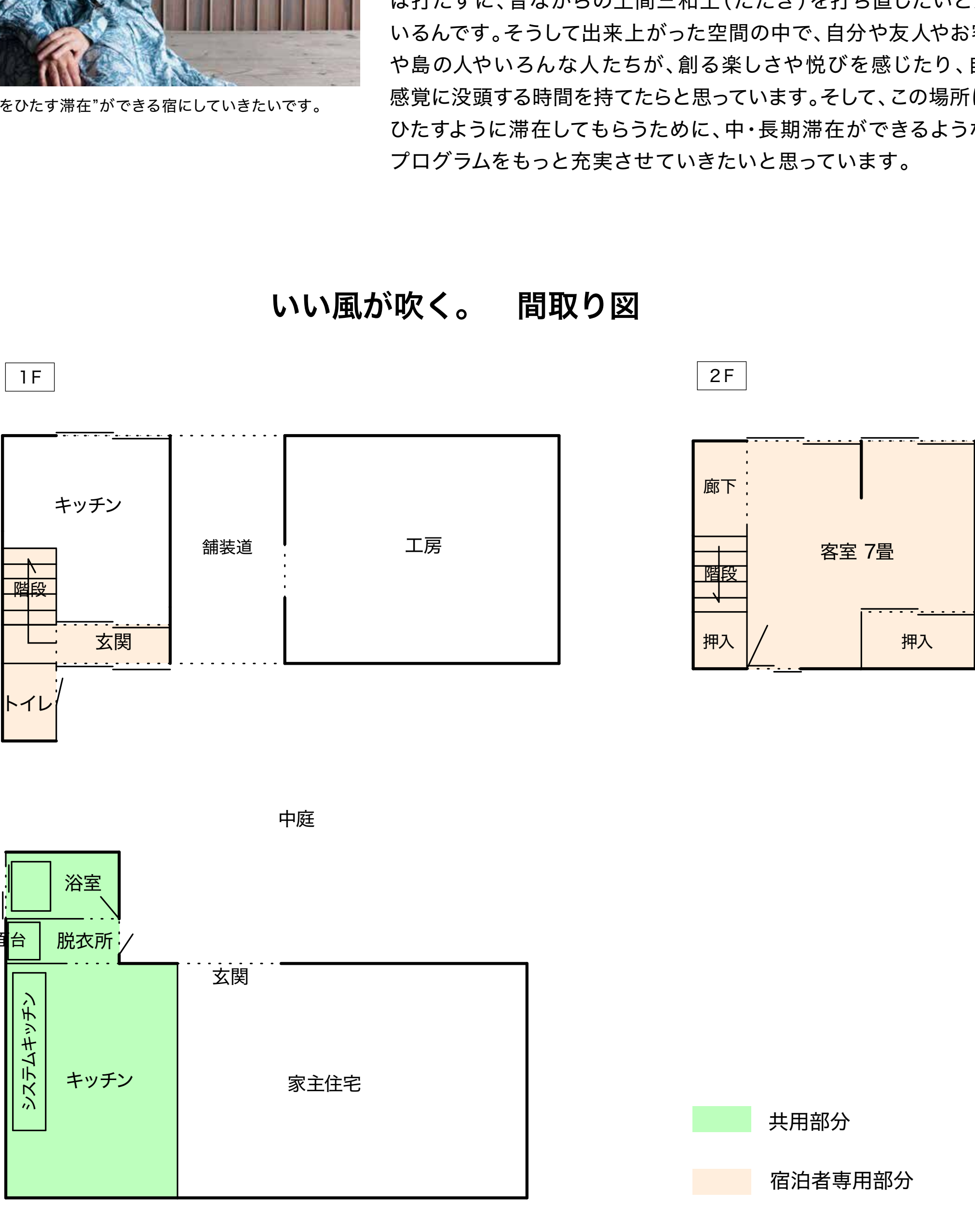


この場所に“身をひたす滞在”ができる宿にしていきたいです。

お伝えしてきたように、私の宿は最初から完成された形としてスタートしたわけではなく、運営しながら形を作っています。少しずつ進化しているんですけど、基本にあるのは、ここにある環境や資源をできるだけ活かしたいということ。また、ここのものに作り変えてしまおうではなく、古さや味わいに価値を見出しながら、そこに快適さや自分の感性を加えていく感じです。

宿にしている納屋にもするスペースがあるんですけど、今はそこを陶芸のできる工房にする準備を進めています。梁の見える吹き抜けの天井と土壁と土間でできたすごくいい空間なので、コンクリートは打たずに、昔ながらの土間三和土（たたき）を打ち直したいと思っています。島の人やいるんならたちが、創る楽しさや喜びを感じたり、自分の感覚に没頭する時間を持てたらと思っています。そして、この場所に身をひたすように滞在してもらうために、中・長期滞在ができるような形とプログラムをもっと充実させていきたいと思っています。

## いい風が吹く。 間取り図



## いい風が吹く。基本情報

住所	〒761-4662香川県小豆郡土庄町豊島唐櫃1077		
問い合わせ	iikazegafuku1077@gmail.com		
活用した建物	古民家の納屋		
営業期間	通年不定休(要予約) チェックイン 15:00 チェックアウト 10:30		
宿泊スタイル	一棟貸し(寝室一部屋)		
体験メニュー	・陶芸(手びねりと焼成) ・ピクニックとお茶タイム ・土いじり ・森歩き ・植物あつめ ・石ころい ・野草茶づくり ・蠟燭づくり		
食事	朝食 700円/名 予約時要相談		
宿泊料	一棟貸し(最大3名様) 基本料金 素泊まり1泊1名ご利用 8,500円/名 2名ご利用 7,500円/名 小学生以下のお子さまは半額(添い寝される場合は無料) お支払い 現金のみ(旅行サイトでの予約時はオンラインカード決済可能)		
ホームページ	<a href="https://www.iikazegafuku.com/">https://www.iikazegafuku.com/</a>		
その他	[instagram] <a href="https://www.instagram.com/iikazegafuku/">instagram.com/iikazegafuku/</a> [youtube] <a href="https://www.youtube.com/@Hanake_Hanaday">youtube.com/@Hanake_Hanaday</a>		

※施設の情報は、令和7年1月31日現在のものです。